

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

税金と地球温暖化の関係性

白岡市立篠津中学校 二年

小久保 優衣

近年、夏に猛暑が続いている。少しの外出で命の危険を感じてしまうほどだ。どうやら地球温暖化の影響で、年々気温が上昇しているらしい。

そんな地球温暖化を抑制するための税が世界にある。炭素税だ。炭素税は、政府が温室効果ガスの排出量に対して課税するものだ。日本では炭素税に似た税が、地球温暖化対策税として導入されている。全ての化石燃料の利用に対して課税する仕組みだ。おおまかに書くと、これらの税は地球環境を守るためにある。この税が導入されると、各個人や企業が節約のために税負担を減らそうとする行動が、二酸化炭素の削減につながるようになる。

「炭素税は地球の使用料」という考え方もあるらしい。私はこの考え方に感動した。さらに、その税收も二酸化炭素の排出抑制のために役立てられるという。地球にやさしい税金は、使われ方もクリーンだ、と心が暖かくなった。

だが、私には一つ疑問が残った。この税を導入したことにより、「地球温暖化対策への意識や行動変革を促す」効果が見込まれると環境省のホームページに書かれていた。確かに、この税について知った人は地球温暖化に対する意識が変わるだろう。しかしながら私の周りで地球温暖化対策税の存在を知っ

ている人はいなかった。もちろん、私の身の回りにいる人の地球環境に対する意識が低い可能性もある。だがこの税の意義は、税收を集めることだけではない。国民の地球温暖化対策への意識を変え、地球温暖化を抑制することが税導入の目的だ。それなのにこの税は認知が足りない。つまり、役割を果たし切れていないのではないだろうか。革新的でクリーンなアイデアが、十分に浸透していないのはもったいない。そこで、地球温暖化対策税が国民全員に知れ渡るような取り組みが必要だと、私は思う。例えばポスターを製作したり、マスメディアと協力したりして、国民全員が地球温暖化対策を知っているような国になったら良いのではないか。もちろんこの取り組みにも税金はかかる。だが「炭素税は地球の使用料」という考え方に基くと、この取り組みは税金の無駄だ、とは言えないと思う。

地球温暖化の影響は、今、国民の多くが考えているより深刻だと思う。とあるウェブサイトによると、二二〇〇年の夏頃には四十度を超える日が珍しくないという。デング熱やマラリアなどの感染症も広がり、ゲリラ豪雨が毎日のように起こる。私はこのような未来を見たくない。だが、地球温暖化対策税を無自覚に納めるだけでは、未来は変えられない。大切なのは、その意義・役割を理解し、地球温暖化を抑制することだ。私たちの一つ一つの行動が、地球の未来を左右する。その行動を変えるきっかけとして、地球温暖化対策税の認知度が上がっていかば良いと思う。そうなれば未来はより良いものになるだろう。